

第7回地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議(2017.07.26)
 「沖縄の大学との連携状況(これまでの取組、成果、課題と国に求める支援等)」資料

桜美林大学のこれまでの取り組み

- ◆1999年4月に沖縄国際大学、名桜大学と協定を結ぶ。
 覚書には、主に以下の内容が記載されている。
 - 受け入れ学生の名称は「特別聴講生」⇒単位修得に結びつかない「聴講生」と異なり、本学と提携する大学からの交換留学や高校からの受け入れ時に無償で授業を受けさせ単位認定を行う。
 - 対象学年は2年次以上
 - 受け入れ学生は5名以内⇒後の資料に掲載されている通り、沖縄国際大学からはこの数年15人ほどの受け入れとなっている。※5人を超える場合は超過可能かの事前連絡あり。
 - 受け入れ在学期間は前・後期または1年以内
 - 履修単位の上限は40単位(年間)、半期では20単位を上限としている。
 - 受け入れ大学は検定料や履修料等を免除する。

- ◆2016年度に沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学とも同様の内容で協定を結ぶ。
 現在3大学1短期大学。
- ◆派遣(桜美林⇒沖縄)は少なく、受入(沖縄⇒桜美林)は多くアンバランス。入学者の都道府県別では全国11位。

派遣人数(合計)			受入人数(合計)		
年度	沖縄国際大学	名桜大学	年度	沖縄国際大学	名桜大学
1999	1	0	1999	0	0
2000	2	0	2000	2	0
2001	6	1	2001	6	1
2002	2	0	2002	6	1
2003	3	1	2003	14	1
2004	2	3	2004	8	1
2005	2	1	2005	14	0
2006	1	1	2006	10	1
2007	5	1	2007	9	0
2008	2	2	2008	17	1
2009	4	1	2009	11	0
2010	2	0	2010	15	1
2011	4	0	2011	15	0
2012	1	2	2012	13	3
2013	0	0	2013	15	2
2014	2	0	2014	15	6
2015	1	0	2015	15	2
2016	0	0	2016	15	5
2017	1	0	2017	15	1
合計	41	13	合計	215	26

左表合計数をみると、派遣人数は1999年の取り組みから2017年までで両大学をあわせて54人。一方受入は241人となり、桜美林大学への受入が数で圧倒している。2016年度に協定を結んだ沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学への派遣、受け入れは2017年度では応募者がでなかった。桜美林大学同様、協定から学生への告知に時間が限られていたことが原因と思われる、2017年度の秋学期以降に期待したい。

地方から都心へ出ることと、都心部から地方へ出ること、また学力間格差(両大学は本学と偏差値

が同等もしくは若干低い)などもあり、派遣人数と受入人数とに差があるように思われる。また、後

述するが、特に半期でのアパート契約が課題として挙げられる。

桜美林学園創立者清水安三先生は、日本で唯一戦地と化した沖縄の教育事情に力を注いできており、早期に沖縄県地区での大学入学者選抜を行ってきた。結果、桜美林大学で学び中高教員として沖縄の地で教鞭をとる卒業生も多く、沖縄からの入学者は本学入学者の中でも地方の中では高い比率を示している。沖縄からの入学者が比較的多いこと、また当協定の取り組み

2017/6/5現在

No.	都道府県	在学生数	地方	入試
1	神奈川県	3885	関東地方	
2	東京都	2299	関東地方	
3	静岡県	259	関東地方	
4	埼玉県	240	関東地方	地区会場(一般)
5	千葉県	180	関東地方	地区会場(一般)
6	長野県	176	中部地方	
7	茨城県	156	関東地方	
8	新潟県	133	中部地方	
9	山梨県	122	中部地方	
10	福島県	116	東北地方	
11	沖縄県	112	沖縄地方	16774 地区会場(AO・指定校・一般)

によって、沖縄の文化なども桜美林大学の中には普通に定着しており、その代表的なものとして挙げられるのが沖縄エイサー部(卒業生30人を含む約100人/沖縄国際大学「琉球風車」の関東支部)の活動である。詳細は別紙資料1にて確認できるが、

沖縄出身の学生自身も郷土愛からか、本学のクラブ活動において「エイサー部」で活動をする者が多い(112人在学者中確認できる22人のうち8人がエイサー部)。

◆国内留学をする理由～留学を終えて

派遣(桜美林⇒沖縄)をみると、学生の家族構成の中で沖縄に血縁関係があったり、沖縄に興味関心があったり、勉学のためだったりごく普通の理由と思われる。留学を終えた学生からは、同じ国内の中でも交流を通じて異文化感を強く感じる経験(沖縄・基地問題から世界を沖縄軸で考えるようになる)ができたり、郷土愛というものを強くもち、沖縄のために動く人々のそのバイタリティーに心を打たれることが多いようである。

受入(沖縄⇒桜美林)は、都心部を見る・居ることがそもそも貴重な体験につながることで、また沖縄の大学を卒業後に如何に就職へのパイプを強くできるかなど、かなり実重視の印象がある。

これらを考えると、第一に受入が多いのには、地元(沖縄)から離れてでもしっかりと就職口を確保するための地盤固めを重要視していること。つまり、地元産業が盛んにならないと今後も地方離れは継続され、都市部に若者が流れる傾向があるということ。一方、派遣で赴いた学生もその土地の魅力に気がつくこともあるので、如何にして学生を呼び込めるだけの準備ができるかが地方の課題として見えてくる。実際本学においても沖縄出身者でなく沖縄県の教職者として教鞭をとっているものがある(派遣経験のある学生)。

成果

◆沖縄で桜美林大学を認知されていることと沖縄文化が普通に存在していること

国内留学のみで達成されているものではないが、上述のとおり桜美林大学が沖縄県の離島を含む多くの中学・高校で認知されていることが何よりも大きい。スポーツなどにより知名度を挙げようとする大学と異なり、教員養成～教育者を通じてその土地に居を構えて生徒の人格形成期に大きな影響をもたらすことができたこと。また国内留学を通じて本学を認知している学生に、短期とはいえ

留学経験を積ませることによって桜美林の教育を、体感してもらえることが成果として挙げられる。これらは、広報などを通じて行われるものではなく、いわゆる口コミマーケティングニバズ・マーケティングにつながることから、聞き入れた方がその情報に信頼を得やすい効果があると思われる。このことは桜美林大学にとっての大きなメリット(成果)といえよう。他方、沖縄から桜美林で学んだ学生にとっても都心部での就職ネットワークが構築されているようなので成果といえる(詳細については沖縄の大学で確認をする必要あり)。あまり好ましくない成果としては以下に挙げられる沖縄の大学生の流出問題がある。

◆協定大学からの編入学者

協定大学からの編入学者も少なからずおり、2008年度～16年度における沖縄⇒桜美林大学

2008～2016年度 沖縄国内留学受入学生 編入生一覧

国内留学	期間	大学	氏名	本学所属	学籍	編入時期
2008年度	通年	沖縄国際大学	平良 幸太	大学 LA学群 LA	卒業	2009年度編入
2008年度	通年	沖縄国際大学	山城 修吾	大学 LA学群 LA	卒業	2009年度編入
2008年度	通年	沖縄国際大学	平良 直也	大学 LA学群 LA	卒業	2009年度編入
2015年度	通年	名桜大学	幸地 真奈美	大学 LA学群 LA	在学中	2016年度編入
2016年度	通年	沖縄国際大学	仲本 圭佑	大学 LA学群 LA	在学中	2017年度編入
2016年度	春学期	沖縄国際大学	新里 牙	大学 BM学群 BM学類	在学中	2017年度編入
2016年度	春学期	沖縄国際大学	又吉 麻菜美	大学 LA学群 LA	在学中	2017年度編入

の編入学者は左表のとおりとなる。

本学から沖縄の大学への編入学者は派遣学生の少ない理由などからもあり、0人となっている。学生の意思とはいえ、結果的には桜美林大学が沖縄の大学生を横取りするような形になっていることは残念と云わざ

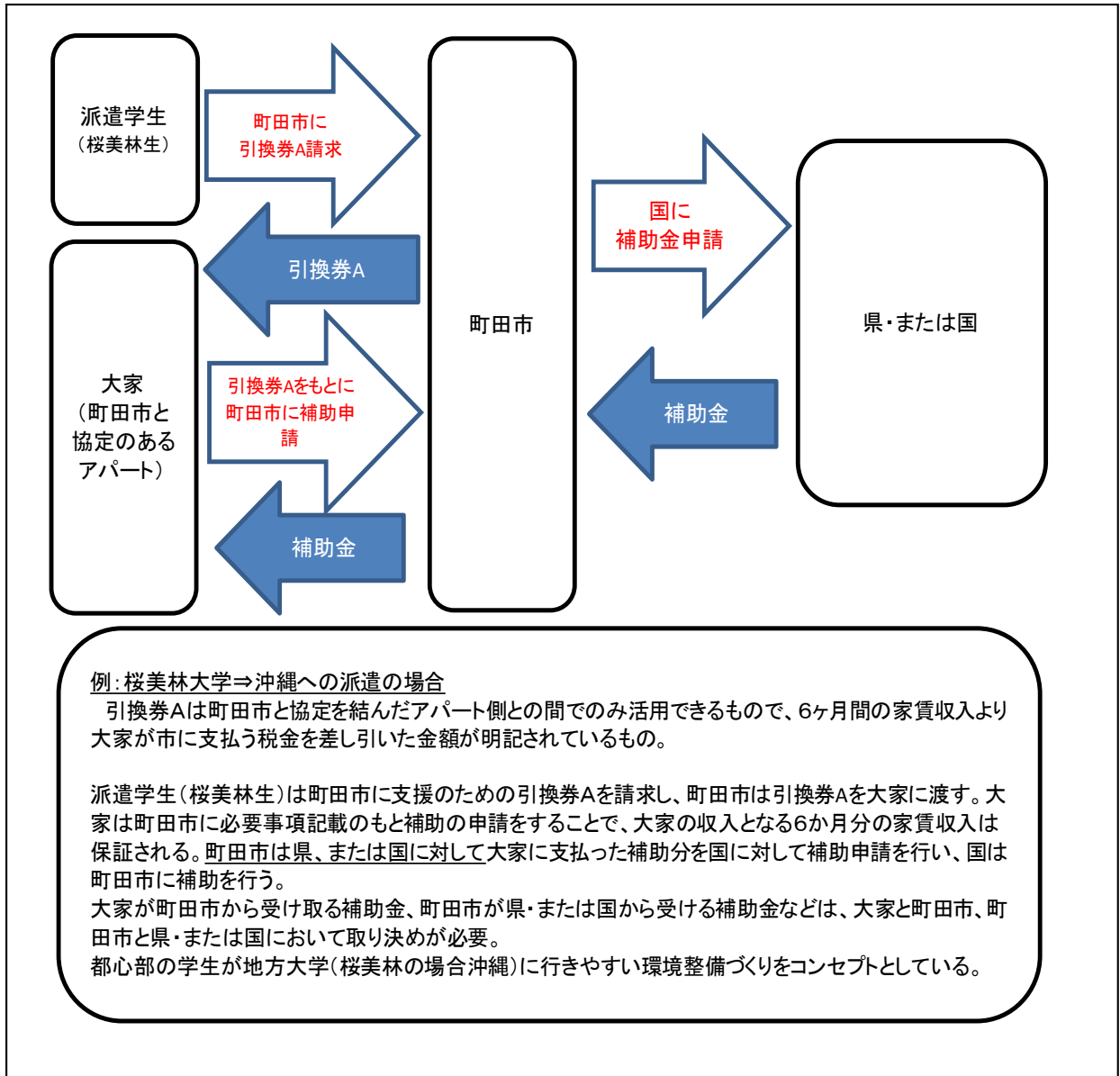
るを得ない。このようなバランスの悪さを抑えるためにも、以下に挙げる課題克服や、協定間大学同士の無理のない水準合わせなどが必要と思われる。

課題と国に求める支援等

◆住居問題、地方と都心部の問題解消は「地域交流(教育)バウチャー制度」がキーワードか

本学において課題として受け止めているのは、派遣・受入の表で見られたように派遣数が少なく、受入数が多い原因として明らかになっているのは住居問題である。桜美林⇒沖縄の場合、学生にとって魅力のある半期の交換留学ではあるが、桜美林に通う学生のうちアパート等に住んでいる学生にとっては半期分の家賃をどうするかが課題となっている。アパート解約⇒沖縄での契約(半期)の可能性⇒戻ってからの契約 と、不安要素があることは確かである。沖縄⇒桜美林の場合は、多くはマンションなどを契約している学生が多い様子。沖縄県出身者を対象とした県民寮や、都心部においてはマンションなどの環境が整っているが、沖縄にはそのような環境が(とくに大学所在地付近)整っていないことなどから、派遣の場合に足踏みをする傾向がある。

また地方の場合は、交通手段の悪さも挙げられる。大学が地方・郊外にあると、大学までの交通手段が限られることや、住居優先にすると買い物などがままたらぬことが多いのでインフラ整備も必要となる。このような環境を打破するためには、教育バウチャー制度などの活用が考えられないか。例えば、町田市と宜野湾市、中頭那、名護市における「国内交換留学生に対する住居バウチャー支援」などを用意する。基本的には、交換留学生在がその地に暮らすということは地域にとっても収入(税金)となることから、その住居支援にかかわる費用負担などを市、国が支援するというものである。住居にかかわる支援があるだけでも国内留学交流の学生負担という壁はかなり低くなると思われ、国内留学交流の加速化も期待できるのではないか。



◆地方の産業活性化

その土地に根付いてもらうためにも、また人を呼び寄せるためにも以下の二点を提案する。第一に挙げられるのは地方産業の活性化である。沖縄の場合、恐らくは観光業に的を絞ることが多いかと思われるが、学識者と企業をマッチングさせた取り組みをもってインバウンドで人が呼べる観光を起こすことが重要ではないか。第二に、少子高齢化に向けた取り組みとして、少子化改善の対策としての行政的取り組み、子供の医療費補助・免除、保育所完備、フランスで導入されている子供の多い世帯ほど課税負担が軽減される「世帯課税方式(N分N乗方式)」を検討するなど、行政として、外部から人が流入する取り組みを行うことが必要と思われる。

◆最後に

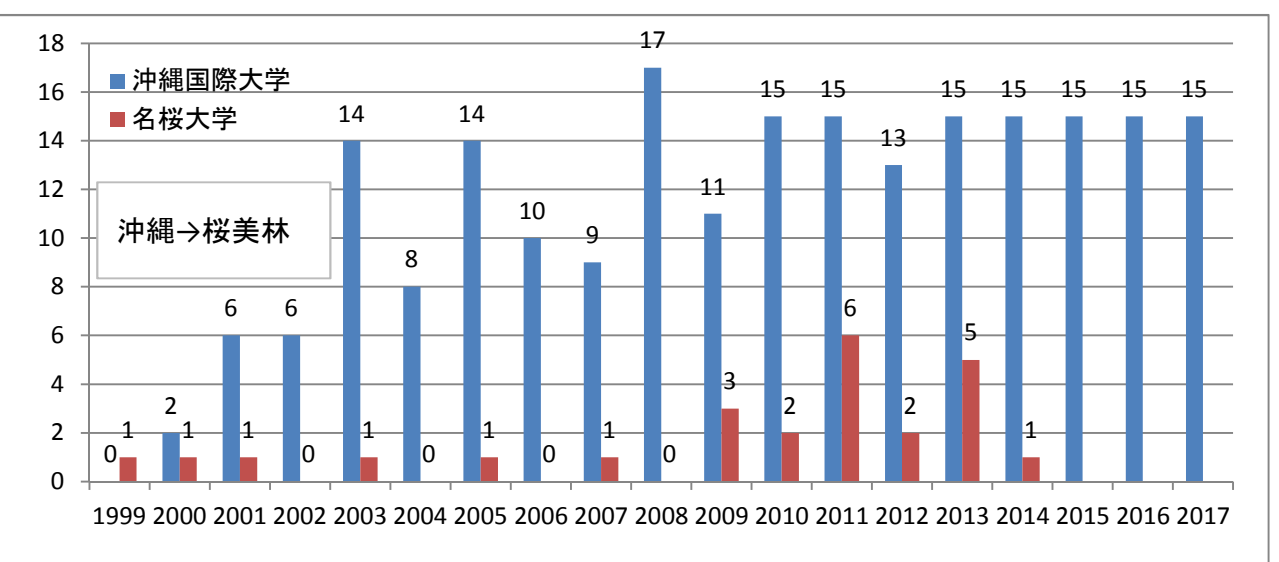
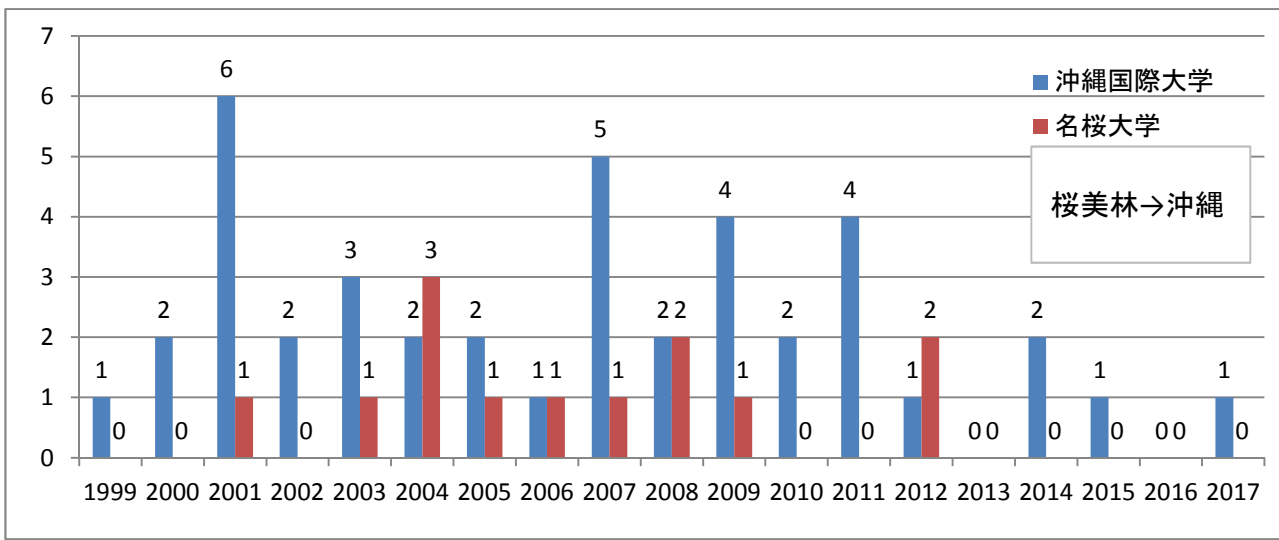
本学基順で外国人留学生を対象に国内留学を進める場合には、沖縄のほか、北海道、京都などの留学生問わず外国人に人気のある地方の大学との協定が考えられる。

以上

派遣人数(合計)		
年度	沖縄国際大学	名桜大学
1999	1	0
2000	2	0
2001	6	1
2002	2	0
2003	3	1
2004	2	3
2005	2	1
2006	1	1
2007	5	1
2008	2	2
2009	4	1
2010	2	0
2011	4	0
2012	1	2
2013	0	0
2014	2	0
2015	1	0
2016	0	0
2017	1	0
合計	41	13

受入人数(合計)		
年度	沖縄国際大学	名桜大学
1999	0	0
2000	2	0
2001	6	1
2002	6	1
2003	14	1
2004	8	1
2005	14	0
2006	10	1
2007	9	0
2008	17	1
2009	11	0
2010	15	1
2011	15	0
2012	13	3
2013	15	2
2014	15	6
2015	15	2
2016	15	5
2017	15	1
合計	215	26

2016年度協定を結んだ沖縄キリスト教学院大学データは派遣、受入とも2017年4月時点でなし。
 協定では受入5人(前期・後期・通年)であるが、沖縄国際大学からの派遣は多く、名護市にある名桜大学からの派遣は協定レベルとなっている。これまでに沖縄から本学への受入は200人を超えており、編入学生として受け入れた事例もあがっている。



2017/6/5現在

都道府県別在学生数(男女数・指数)

No.	都道府県	在学生数	男性	女性	全体指数
1	神奈川県	3,885	1,722 (44.3%)	2,162 (55.6%)	43.4%
2	東京都	2,299	982 (42.7%)	1,317 (57.3%)	25.7%
3	静岡県	259	82 (31.7%)	177 (68.3%)	2.9%
4	埼玉県	240	94 (39.2%)	146 (60.8%)	2.7%
5	千葉県	180	90 (50.0%)	90 (50.0%)	2.0%
6	長野県	176	65 (36.9%)	111 (63.1%)	2.0%
7	茨城県	156	54 (34.6%)	102 (65.4%)	1.7%
8	新潟県	133	48 (36.1%)	85 (63.9%)	1.5%
9	山梨県	122	32 (26.2%)	90 (73.8%)	1.4%
10	福島県	116	42 (36.2%)	74 (63.8%)	1.3%
11	沖縄県	112	46 (41.1%)	66 (58.9%)	1.3%
12	群馬県	102	31 (30.4%)	71 (69.6%)	
13	北海道	100	30 (30.0%)	70 (70.0%)	
14	宮城県	82	20 (24.4%)	62 (75.6%)	
15	栃木県	74	32 (43.2%)	42 (56.8%)	
16	愛知県	61	30 (49.2%)	31 (50.8%)	
17	青森県	61	12 (19.7%)	49 (80.3%)	
18	山形県	46	10 (21.7%)	36 (78.3%)	
19	福岡県	43	21 (48.8%)	22 (51.2%)	
20	岩手県	42	15 (35.7%)	27 (64.3%)	
21	広島県	31	13 (41.9%)	18 (58.1%)	
22	熊本県	31	14 (45.2%)	17 (54.8%)	
23	秋田県	28	10 (35.7%)	18 (64.3%)	
24	富山県	22	7 (31.8%)	15 (68.2%)	
25	大阪府	21	14 (66.7%)	7 (33.3%)	
26	石川県	21	10 (47.6%)	11 (52.4%)	
27	兵庫県	19	8 (42.1%)	11 (57.9%)	
28	鹿児島県	17	9 (52.9%)	8 (47.1%)	
29	岐阜県	16	6 (37.5%)	10 (62.5%)	
30	高知県	13	4 (30.8%)	9 (69.2%)	
31	三重県	13	5 (38.5%)	8 (61.5%)	
32	香川県	12	1 (8.3%)	11 (91.7%)	
33	岡山県	12	7 (58.3%)	5 (41.7%)	
34	山口県	11	4 (36.4%)	7 (63.6%)	
35	愛媛県	10	5 (50.0%)	5 (50.0%)	
36	京都府	10	3 (30.0%)	7 (70.0%)	
37	佐賀県	9	5 (55.6%)	4 (44.4%)	
38	福井県	9	2 (22.2%)	7 (77.8%)	
39	大分県	9	1 (11.1%)	8 (88.9%)	
40	島根県	9	5 (55.6%)	4 (44.4%)	
41	長崎県	8	2 (25.0%)	6 (75.0%)	
42	宮崎県	7	4 (57.1%)	3 (42.9%)	
43	和歌山県	5	1 (20.0%)	4 (80.0%)	
44	鳥取県	4	0 (0.0%)	4 (100.0%)	
45	徳島県	4	2 (50.0%)	2 (50.0%)	
46	滋賀県	3	2 (66.7%)	1 (33.3%)	
47	奈良県	1	0 (0.0%)	1 (100.0%)	
48	未記入	3	3 (100.0%)	0 (0.0%)	
49	外国	295	163 (55.3%)	132 (44.7%)	
50	全体	8,942	3,768 (42.1%)	5,174 (57.9%)	

2017/6/5現在

沖縄県にある高等学校(および大学)出身在学生数					
出身校別	4年生	3年生	2年生	1年生	総計
興南	2	5	4	3	14
那覇	3	2	3	2	10
浦添	2	1	6		9
那覇西	3	3	2	1	9
八重山	3	3	2	1	9
コザ	1	1	3		5
首里	1	2	1	1	5
沖縄尚学		1	1	2	4
開邦	2	1		1	4
宮古	2	2			4
小禄		2	1	1	4
沖縄カトリック		2	1		3
球陽	1		1	1	3
具志川	1	1		1	3
首里東		1		2	3
名護		3			3
那覇国際	1	1			2
美来工科		2			2
普天間	2				2
豊見城南		1	1		2
浦添工業		1			1
向陽			1		1
西原			1		1
読谷				1	1
八重山農林				1	1
美里			1		1
沖縄国際大学からの編入生		3			3
沖縄にある大学等からの編入生		1			1
編入入学者選抜(一般)		1			1
外国の学校等				1	1
総計	24	40	29	19	112

2017/6/5現在

学群	沖縄出身在学生数
大学 BM学群 AM学類	5
大学 BM学群 BM学群	7
大学 BM学群 BM学類	26
大学 GC学群 GC学類	5
大学 LA学群 LA学群	56
大学 芸文学群 映画	2
大学 芸文学群 演劇	3
大学 芸文学群 造形	3
大学 健福学群 健康科学	3
大学 健福学群 精神保健	1
大学 健福学群 保育	1
総計	112

授業コード	科目の所属	科目名	履修者数
26333	BM学群	航空とICT	6
26599	BM学群	現代ホスピタリティ(a)	4
26593	BM学群	市場調査入門	4
26194	BM学群	ホスピタリティ空間デザイン	3
26424	BM学群	企業経営と情報	3
26140	BM学群	顧客心理	3
26005	BM学群	専攻演習II	3
26302	BM学群	日本の経営者(a)	3
26362	BM学群	旅行マーケティング	3
26193	BM学群	テーマパーク論	2
26332	BM学群	ビジネスコミュニケーション(英語)IA	2
26455	BM学群	観光学概論(a)	2
26206	BM学群	経営戦略入門(a)	2
26328	BM学群	市場調査フィールドワーク	2
26066	BM学群	中小企業経営論	2
26143	BM学群	パソコン利用のグラフ意思決定	1
26719	BM学群	ビジネスコミュニケーション(英語)IB	1
26139	BM学群	ブランドと商品	1
26294	BM学群	ホスピタリティ・コミュニケーションB(英語)(a)	1
26034	BM学群	ホテルビジネス I(営業)	1
26036	BM学群	ホテルビジネス II(管理)	1
26048	BM学群	マーケティング入門(a)	1
26280	BM学群	リスクマネジメント入門	1
26167	BM学群	観光とICT	1
26496	BM学群	観光地理	1
26683	BM学群	広告論I(広告の基本)(a)	1
26485	BM学群	商品企画の実際	1
26154	BM学群	消費者心理入門(a)	1
26254	BM学群	情報戦略論	1
26335	BM学群	組織と心理	1
26580	BM学群	特別講義 IV(観光ビジネスのデータ分析)	1
22672	LA学群	環境とまちづくり	4
22001	LA学群	専攻演習I	4
22180	LA学群	英語の音声	3
22286	LA学群	現代コミュニケーション理論	3
22085	LA学群	国際コミュニケーション	3
22441	LA学群	広告コピーを読む	2
23236	LA学群	社会環境と知的財産	2
23024	LA学群	日本文学史A	2
22317	LA学群	アメリカ経済論	1
22400	LA学群	オーラルコミュニケーション(きく)	1
22385	LA学群	ことばの比較	1
22312	LA学群	家族心理学	1
22394	LA学群	基礎マクロ経済学	1
22393	LA学群	基礎ミクロ経済学	1

22789	LA学群	財政学	1
22290	LA学群	生涯発達心理学	1
22260	LA学群	中国文学概論	1
23432	LA学群	中小企業論	1
22453	LA学群	日本教育史	1
22882	LA学群	日本語の文法	1
22368	LA学群	文化人類学	1
22327	LA学群	平和論	1
27442	健福専攻	ヘルスカウンセリング	1
27506	健福専攻	社会福祉	1
27418	健福専攻	障害学	1
27020	健福専攻	人間関係論(健)	1
27790	スポーツ	スポーツ(ウィークリー)レクリエーション1	1
24009	芸文学群	音楽マネジメント論	1
20555	英語(基盤)	英語エレクトィブII-中級(Speech Comm)	1
20724	外国語(基盤)	コリア語I(f)	1
20495	基盤教育	キャリアデザインC(j)	2
20492	基盤教育	キャリアデザインC(g)	1
23057	基盤教育	社会理解(現代社会と大学での学び)	1
23479	基盤教育	人間理解(現代社会の問題と哲学思想)	1
20472	基盤教育	大学での学びと経験(c)	1
20466	基盤教育	文章構成法(a)	1

2017/7/13

沖縄での所属学群・学部			
沖縄国際大学		名城大学	
経済学部経済学科	1	国際学群国際学類	1
産業情報学部企業システム学科	5		
産業情報学部産業情報学科	1		
総合文化学部英米言語文化学科	3		
総合文化学部日本文化学科	2		

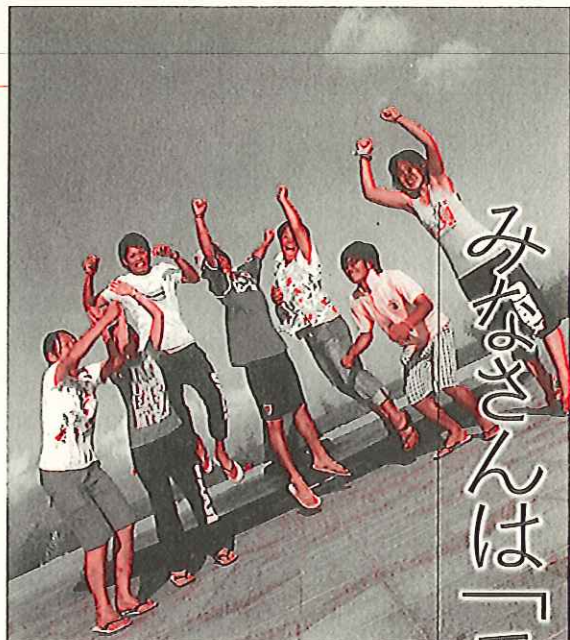
2017/7/13

2017/6/5現在

所属課外活動(桜美林大学)	沖縄出身在学生数
沖縄エイサー部	8
大学祭実行委員会	5
野球部	3
中国研究会	2
グローバルサポーターズ	1
ソフトテニス部	1
剣道部	1
桜美林大学吹奏楽団	1
(空白)	90
総計	112

2008～2016年度 沖縄国内留学受入学生 編入生一覧

国内留学	期間	大学	氏名	本学所属	学籍	編入時期
2008年度	通年	沖縄国際大学	平良 幸太	大学 LA学群 LA	卒業	2009年度編入
2008年度	通年	沖縄国際大学	山城 修吾	大学 LA学群 LA	卒業	2009年度編入
2008年度	通年	沖縄国際大学	平良 直也	大学 LA学群 LA	卒業	2009年度編入
2015年度	通年	名桜大学	幸地 真奈美	大学 LA学群 LA	在学中	2016年度編入
2016年度	通年	沖縄国際大学	仲本 圭佑	大学 LA学群 LA	在学中	2017年度編入
2016年度	春学期	沖縄国際大学	新里 牙	大学 BM学群 BM学類	在学中	2017年度編入
2016年度	春学期	沖縄国際大学	又吉 麻菜美	大学 LA学群 LA	在学中	2017年度編入



みなさんは「エイサー」を知っていますか？

2009年度文学部健康心理学科卒 小野間 昌和さん

桜美林大学を卒業して早くも3ヶ月が経ちました。振り返る間もなくめまぐるしい毎日の中で、今回の原稿を書く機会をいただいたことにより、学生時代を思い返すことができ、本当に嬉しく思っています。こうして思い返してみると、本当にあつという間のようで、それでいてそれまでの人生の100倍の濃さで彩られた日々でした。入学してから卒業するまで、私は

たくさんの人(宝物)と出会って、ひとつの大海を終えました。今日はその旅で見つけた、「自由」と「行動」と「感謝」という自分の人生のテーマに沿ってまとめてみます。これを読んでくださった方に、特に在校生・新入生のみなさんに少しでも何か自分自身の宝を見つける手助けになれば幸いです。

まず、桜美林大学に入学してそれまで18年間育った実家の山梨を離れ、一人暮らしを始めました。掃除・洗濯・食事などすべて自分で行うこと、授業を自分で選びスケジュールを組むことなど、とにかくいろいろな面で自由を感じました。実家から通う方も多いと思いますが、もし迷っている人がいたら、一人暮らしすることをお勧めします。それによって地元の良さを再確認できたり、産み育ててくれた親や親族の偉大さも改めて感じる事ができるからです。

大学生生活は多くの人にとって、人生で一番「自由」な時かもしれません。そして自由のウラには責任が伴うということにも気づいていくんだと思います。

桜美林大学は無限に広がる大海のように可能性に満ちていると感じます。入学当初はその広さ故にとまどいましたが、一歩ずつ進んで行くとなれば3年のときに訪れました。沖繩にある協定校の沖繩国際大学に一年間国内留学することにしました。きっかけは桜美林大学に沖繩から国内

留学している人達と友達になったことです。2年次の後期には、この人達の生まれ育った沖繩に行ってみたく思うようになっていました。

まずは「行動」、結果は良かれ悪かれ後からついてきます。そうしてまた成長できるんだと思います。

何も知らずに乗り込んだ沖繩は、空が広いという印象を受けました。そして本当に海がきれいで、海の無い山梨県に育った私には衝撃的な世界でした。まずはメジャーな観光地を巡ったり、沖繩の食を堪能したりしてしばらく過ごしていました。そして授業が始まり少しした頃、ちよとした(しかし奇跡的な、そして運命的な)きっかけで「琉球風車」というサークルに見学に行くことになりました。

みなさんはエイサーを知っていますか。唄三線に合わせて太鼓などを打ち鳴らしながら踊る、沖繩の伝統芸能です。旧暦の盆に先祖を迎え、そして送り出すために沖繩では各地域の青年達によって踊られています。「琉球風車(りゅう

うきゆうかじまやー)」はエイサーを通してさまざまな交流・福祉活動・イベント出演などの活動をしている団体です。私は初めて琉球風車のエイサーを目の前で体感した時、その鼓動に感動しました。本当にすごい迫力で、それでいて眠くなりそうなほど心地良い音・演者のいきいきとした表情、目に見えない言葉で表せない何か、しつかりとした重みで伝わってくるのです。そのまま入会した私はどんどんエイサーの魅力にはまっていきました。一年間をエイサーを通してたくさんの人達と出会い、沖繩での本当に充実した日々を過ごしました。本当に忘れられない日々、すべての人に「感謝」です。

桜美林大学に帰ってきて4年次、やりたいことは決まっていました。あの琉球風車を、エイサーを伝えたいという想いでした。さっそく同じく国内留学していたメンバー、沖繩から国内留学したメンバーを中心に2008年4月に「桜風エイサー(おうかじえいさー)」という団体を結成しました。そこから徐々に仲間を増や

し、練習場所や演舞を披露できる場所を探して団体を成長させていきました。7月には「中野チャンプルーフェスタ」という大きなイベントに参加させていただいたり、11月の桜美林大学祭では琉球風車の関東支部の「桜風エイサー琉球風車」として新たにスタートをきりました。それから約1年、国内留学やイベントを通して沖繩とたくさん交流が続いています。さらに学校では海外からの留学生と一緒にエイサーをしたり、地域では小学生と一緒にエイサーをしたり、充実した活動をさせていたっていました。本当にこれも周りのみなさん、メンバーのみんなのおかげです。

私は2009年の9月に卒業しました。決して留年したわけではなく、団体をもう少し学生という立場で続けたくて半年間休学していたからです。まあ単位もギリギリでしたが、2009年12月現在、部員は約40名、エイサーを通してこれだけたくさん仲間ができたことを本当に嬉しく思います。自分の大学生生活は最高でした。

ぜひ在校生や新入生のみなさんも、桜美林大学を拠点にどんどん自由に行動して、そして感謝を忘れずに、この大海原を進んでいってほしいなあと思います。

P.S. 桜風エイサー琉球風車、メンバー大募集中です。



沖縄国内留学 アンケート

2015年度派遣者 沖縄国際大学 派遣期間 2年生秋学期(半学期間)

<国内留学をした動機>

祖母が沖縄人で僕にも沖縄の血が流れているので、自分のルーツを知りたくて。
加えて、大学生の時にしか出来ないようなことをしたかったので希望しました。

<これから留学する方へひとこと・アドバイス>

沖縄へ行く理由なんて真っ当な理由でなくても良いと思います。
楽しそうだから、暖かそうだから、一人暮らしがしたいから、沖縄が好きだから、こんな理由で良いと思います。僕も自分のルーツが～とか大層な事を言ってますが、本音は楽しそうだからという想いでした。けど、行ったら想像しているよりも大変な事はあるし、何より住み慣れた環境から離れて生活する事は、海外であれ国内であれ自分を強くすると思います。

そうやって付いた力は絶対に無駄にならないし、“何より沖縄に半年だけ住む”なんて事は大学生の時にしかできないので、迷っているなら行くべきだと思います。

行かぬ後悔なら、行く後悔！！！！

もうこれに尽きます。いけば後悔なんてしないと思いますが。

<このプログラムへのご意見・ご感想>

海外に留学をする人は桜美林にもたくさんいますし、なにより日本には星の数ほどいます。でも、国内に、しかも沖縄に留学をする人は少ないのではないのでしょうか。
沖縄に留学をしていたと言えば遊んでいたように聞こえるかもしれませんが、異なる文化を経験し、基地の問題と世界情勢を沖縄から考え、そして自らの目で様々な事を視た経験は必ずこれからの人生を豊かにしてくれると思います。
そういった貴重な体験が出来た事、こういった素晴らしい経験に巡り会えた事、そしてそれに協力をしていただいた方々に感謝の想いでいっぱいです。

2013年度派遣者 名桜大学 派遣期間 3年生春学期(半学期間)

<このプログラムへのご意見・ご感想>

ありがとうございました。留学に協力して下さった職員の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。—中略—

国内留学は私にとって、桜美林大学に入って良かったと思う理由の1つです。できることなら他の人たちにもたくさんの人たちが名桜大学に留学してほしいと思います。

私はこの留学で地方にも目を向けるようになりました。就職活動でも地方にも目を向けようと思います。本当にありがとうございました。素敵な経験ができました。

2010年度派遣者 沖縄国際大学 派遣期間 3年生秋学期(半学期間)

<このプログラムへのご意見・ご感想>

私のこの国内留学へ参加希望した理由がけっこうガチガチで完全に『勉学』の為の国内留学でした。もちろん、現地で学ぶことは、すごくリアルで考えさせられることが多くて、現地で学べたことは本当に良かったと思っています。でも、私の場合プラスアルファが多くて大げさかもしれませんが、学生としても、1人の人間としても少し成長できたかなと思います。バイタリティーあふれる学生・社会人の人々と接してものすごく刺激を受けましたし、沖縄の人々は郷土愛が強く、地元を活性化させようと頑張っている人々が多くて、見習わなきゃと思うこともあったりして、他の地域から自分の住んでいる地域の事を考えることも増えました。こっちでも、沖縄でこの制度で半年間来た・行っていたと言うと大体驚かれ「おもしろいねえ～」や「いいな！」と言われました。海外への留学はものすごく需要もあり、多くの人々が知っていますが、こんな形での留学はまだまだ認識されていない気がします。他の大学では、あまりない(!?)この制度は、だからこそとても魅力的でした!! 不安なこともいっぱいありましたが、参加して本当に本当に良かったです。もともと大好きだった沖縄でしたが、更に大好きになりました。ありがとうございました。



1. 沖縄国内留学について



本学には、本学と単位互換協定を結んでいる沖縄の大学に留学し、そこで修得した単位を本学の卒業に必要な単位に算入できる制度があります。

【留学期間】 半期

【対象大学】 沖縄国際大学、名桜大学、沖縄キリスト教学院大学・短期大学

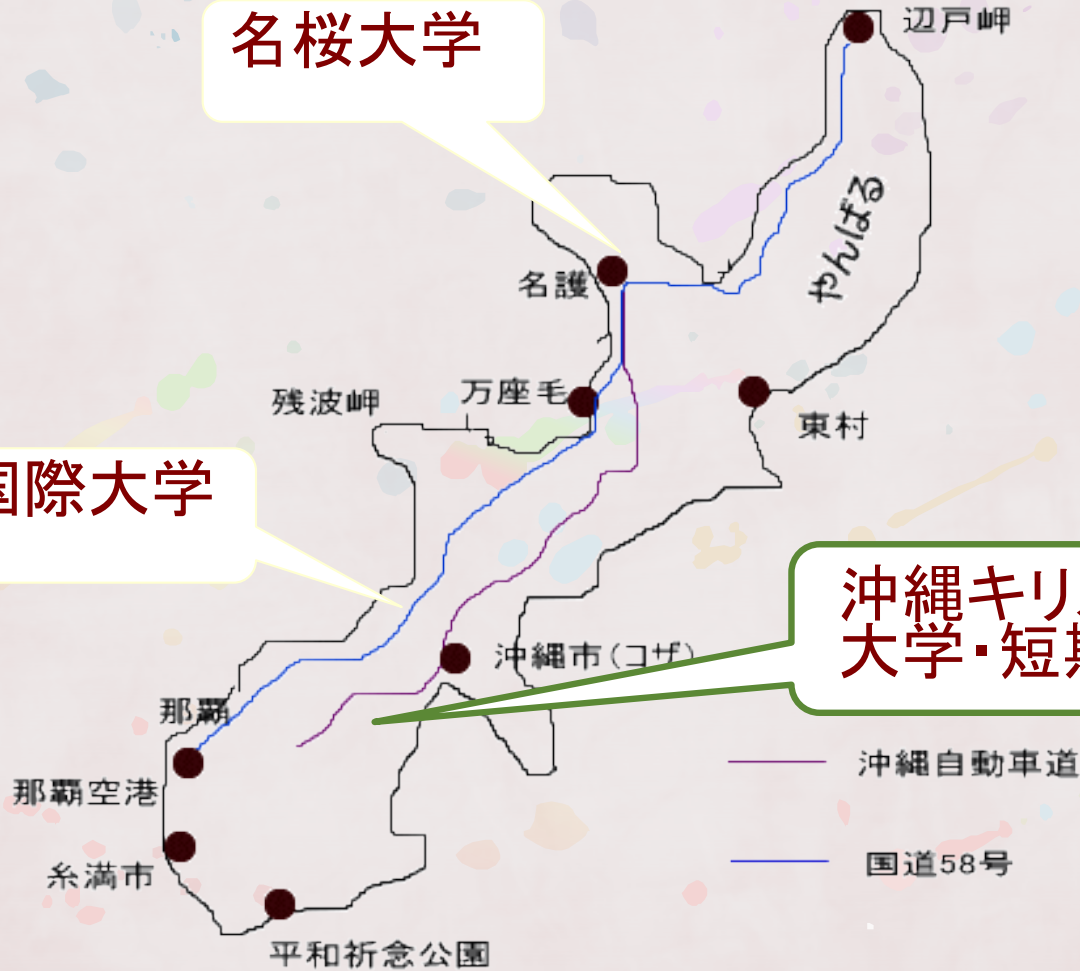
【履修可能単位数の上限】 各学期20単位

*** 教職等諸資格の科目を履修した場合は、資格認定の対象外となります。**

名桜大学

沖縄国際大学

沖縄キリスト教学院
大学・短期大学



沖繩国際大学



法学部

法律学科 | 地域行政学科

経済学部

経済学科 | 地域環境政策学科

産業情報学部

企業システム学科 | 産業情報学科

総合文化学部

日本文化学科 | 英米言語文化学科
社会文化学科 | 人間福祉学科

学生数: 5652名
(2016.5.1現在)

[アクセス]
那覇空港よりバスで70分
タクシー40分



1. 沖縄国際大学 特徴的な科目例

健康・科目群

エアロビクスダンスI

沖縄科目群

沖縄の基地問題A・B

沖縄科目群

沖縄の自然環境I・II

沖縄の地理

沖縄の歴史I~III

沖縄の考古学

沖縄の文学

沖縄の言語

沖縄の芸能

沖縄の社会

沖縄の経済

沖縄の民話

沖縄戦



※履修できる科目は年度によって異なります。
履修科目は教育支援課及び沖縄国際大学で確認してください。

名桜大学

国際学群

国際文化専攻

沖縄コース及び日本コース
東アジアコース及び
東南アジアコース
中南米コース
国際協力コース

語学教育専攻

英語コミュニケーション
英語教師としての専門
日本語教師としての専門

経営専攻

人間行動システム
社会制度システム
企業経営システム
情報管理システム

情報システムズ専攻

ネットワーク技術
システム開発
情報管理
デジタルコンテンツ

診療情報管理専攻

医学領域
IT領域
経営領域
診療情報管理領域

観光産業専攻

観光政策・ビジネス研究
観光文化ガイド研究
環境・エコツーリズム研究

人間健康学部

スポーツ健康学科

看護学科

・那覇空港より名護市内まで
バスで1時間45分
その後、名護バスターミナルより送迎バス・
路線バスにて20分ほど



学生数:2056名
(2016.5.1現在)



1. 名桜大学 特徴的な科目例

国際学群

人間健康学部

○自然科学系科目

- ・沖縄の天然記念物

○人文科学系科目

- ・沖縄地域文化論
- ・南島歌謡
- ・沖縄の文学

○社会科学系科目

- ・沖縄観光

○自然科学系科目

- ・沖縄の植物と保護
- ・環境調査法

○応用・発展科目

- ・スポーツ心理学演習
- ・空手・古武道概論
- ・海洋スポーツ演習
- ・空手
- ・舞踊
- ・琉球舞踊
- ・ウインドサーフィン
- ・スクーバダイビング
- ・テーピング・マッサージ



※履修できる科目は年度によって異なります。
履修科目は当該大学で確認してください。

沖縄キリスト教学院大学・ 沖縄キリスト教短期大学

沖縄キリスト教学院大学
人文学部

◎英語コミュニケーション学科

沖縄キリスト教短期大学

◎英語科

◎保育科

那覇空港よりモノレールと
路線バスで50分

学生数: 891名
短期大学含む
(2016.5.1現在)



沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

1. 沖縄キリスト教学院大学・短期大学 特徴的な科目例

人文学部

◎英語コミュニケーション学科

- ・うちなーぐち講座
- ・Okinawan Studies
- ・沖縄の歴史と現在
- ・沖縄経済学
- ・ジェンダー論
- ・キリスト教平和学

◎英語科

- ・同時通訳実践演習I
- ・異文化共生

◎保育科

- ・海外幼児教育研究
- ・キリスト教保育



※履修できる科目は年度によって異なります。
履修科目は当該大学で確認してください。



留学にあたり

・留学中の学費は本学へ納めてください

* 留学先の大学へ納める学費はありません

・下宿先について

◎ 沖縄国際大学および沖縄キリスト教学院大学

→ 下宿先はご自身で手配してください

◎ 名桜大学

→ 学生寮に空きがある場合、申込みが可能です。

(※詳細については、教育支援課沖縄国内留学担当まで)

・生活費など

→ 現地での生活について、留学より帰国した学生のアンケートがあります。興味のあるひとは、教育支援課まで。